



## 発生動向等サーベイランス情報

### マイコプラズマ肺炎にご注意ください

～ 頑固な咳を伴う呼吸器感染症 ～

全国的に多い状況が続いており、県内でも増加しているため注意が必要です！



発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などの症状が見られ、咳は3～4週間と長期にわたって続きます。軽症で済む人が多いですが、重症化して入院治療が必要な場合もあります。

比較的若くて健康な人に見られ、家庭内や学校でしばしば集団発生が起こります。

★感染経路：飛沫感染、接触感染

★感染対策：手洗い・うがい、患者との濃厚接触回避、咳エチケット

定点当たり報告数  
トップ5 (R6.9.25現在)

1	手足口病
2	新型コロナウイルス感染症
3	マイコプラズマ肺炎
4	感染性胃腸炎
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



マイコプラズマ肺炎

## 感染対策のポイント

### シリーズ4: どんなときも咳エチケットを！



空気を介して広い範囲で感染力を維持する結核・麻疹（はしか）・水痘（水ぼうそう）を除くと、ほとんどの呼吸器感染症は飛沫（咳やくしゃみのしぶき、会話時の唾など）を直接吸い込んで感染すると考えられています。新型コロナウイルスは感染力が強く、小さな飛沫（エアロゾル）の状態でも感染性を維持するため、換気が悪い空間を共有してもうつります。どの呼吸器感染症であっても感染した方が飛沫を出す量を減らすことは、周囲への感染を拡げる勢いをやわらげることに繋がります。例え風邪であっても、流行時には飛沫を飛ばさない工夫（咳やくしゃみの際にはマスク・ハンカチなどで鼻口を覆う）を心掛けましょう。

### 感染症専門家からのアドバイス



筆者が学生のころには、マイコプラズマ肺炎は子どもと若者の病気と習いましたが、近年の研究で流行時には高齢者もそれなりに感染することが分かっています。マイコプラズマ肺炎に有効な抗菌薬（マクロライド系薬）は、通常の肺炎や誤嚥性肺炎で使用されることの多い抗菌薬とは系統が異なりますので、流行時には高齢者でもマイコプラズマを念頭に置いて注意する必要があります。